8　婦人学級生研究大会

(1) **趣　　旨**

県内の婦人学級の代表及び婦人教育関係者が一堂に会し、婦人学級の運営・学習活動について発表交換・研究協議を行い、婦人学級及び婦人教育等の改善充実を図る。

(2) **期日・会場・参加者**

① 期　日　昭和56年９月18日～19日　　１泊２日
② 会　場　会津若松市中央公民館
③ 参加者　婦人学級生・婦人教育関係者　　395名

(3) **内　　容**

① 研究主題
　婦人学級の学習内容の充実と効果的な運営のあり方
② 研究学級実践報告
　ア 県　北　福島市おおとり婦人学級(中間報告)
　イ 県　中　小野町谷津作婦人学級　(経続研究報告)
　ウ 南会津　只見町こぶし婦人学級　(中間報告)
　エ 相　双　大熊町婦人学級　　(経続研究報告)
　オ いわき　いわき市常磐婦人セミナー(　〃　)
③ 講　　演
　演　題　　婦人の学習課題と社会参加
　講　師　　文部省社会教育審議会委員　山本　和代
④ 研究協議
　ア 協議題　魅力的な婦人学級とするための学習内容と運営のあり方
　イ 構　　成　７分散会
　ウ 問題提起
　　第１分散会　県　北　安達町中央婦人学級
　　第２分散会　県　中　滝根町婦人学級
　　第３分散会　県　南　泉崎村婦人学級
　　第４分散会　会　津　会津高田町中央婦人学級
　　第５分散会　南会津　田島町中央婦人学級
　　第６分散会　相　双　富岡町中央婦人学級
　　第７分散会　いわき　常磐婦人セミナー
⑤ ま と め

9　婦人教育指導者研修会

(1) **趣　　旨**

婦人教育活動の各分野にわたり、自発的な学習を促進援助することは極めて重要な課題である。そのため、中心的な役割をはたす民間の有志指導者を養成し、地域のリーダーとして実践活動を推進することにより、本県婦人教育の振興に資する。

(2) **期　　日**

① ブロック研修（事　前）　昭和56年７月21日
② 中央研修（前　期）　昭和56年７月28日～30日
③ ブロック研修（中間１）　昭和56年８月20日
　〃　（中間２）　昭和56年10月20日
④ 中央研修（後　期）　昭和56年11月10日～12日

(3) **会　　場**

①・③……各教育事務所ごと、県下７会場
②・④……国立磐梯青年の家

(4) **参加者**　　116名

対象……原則として年齢45才未満の婦人で、次の①～④のいずれかに該当し、市町村教育委員会が推薦する者

① 市町村における社会教育指導員または婦人教育指導員
② 市町村教育委員会事務局ならびに公民館等職員のうち、中堅層として今後の活動を期待される者。
③ 婦人学級・婦人団体・職場等のリーダーとして、現在ならびに今後の婦人教育活動の推進が期待される者。
④ 上記以外の者で今後の活躍が期待され、地域からも信頼のある者。

※ 昭和47年度～55年度においてすでに本研修会を修了し、地域において実践活動を展開している者は、各教育事務所ごとのブロック研修のみに参加のこと。

(5) **内容・時間**

① 基本研修……20時間
　ア 婦人教育指導者としての資質と心構えに関すること。
　イ 婦人のライフサイクルとボランティア活動に関すること。
　ウ 体育・レクリエーションに関すること。
② 専門研修……25時間
　Aコース　婦人学級リーダー育成コース
　Bコース　婦人団体リーダー育成コース
　Cコース　婦人教育関係職員育成コース

(6) **研修方法**

① 講　　義
　ア 婦人教育指導者としての心構え
　イ 婦人教育指導者に期待するもの
　ウ 明るく心豊かな家庭づくり
　エ 婦人のライフサイクルとボランティア活動
　オ 現代婦人の学習課題
　カ 婦人団体の組織と活動の充実
② コース別学習
　ア 婦人学級の学習内容と方法
　イ 婦人団体の組織と運営の方法
　ウ 婦人教育の現状と課題
③ 研究協議
　◦ 地域における婦人教育活動の現状と課題
④ 報　　告
　◦ 各ブロック研修報告
⑤ 演　　習
　ア 会議のすすめ方
　イ 年間活動計画作成手順
⑥ 実技研修
　◦ 楽しいつどいのもち方とレクリエーションのあり方
⑦ ホームワーク
　◦婦人の学習要求と婦人問題の調査